

LP レコード再生の謎々ひとつ

問題 ここにふたつの LP レコード再生用カートリッジがあります。

ひとつはデノンの DL-103R :

F 特は 20Hz~45kHz、価格は¥42,000

もうひとつはオルトフォンの MC Windfeld

F 特は 10Hz~80kHz、価格は¥450,000

この2種類のカートリッジで同じレコードを再生します。

果たして MC Windfeld の方が良いサウンドを出すのでしょうか？

正解 基本的にはどちらでも同じレベルのサウンドを出せます。

当方はどちらも使用していますが、これは確認済み、間違いありません。

確かに仕様上は MC Windfeld の方が広帯域です。

しかし、通常のレコードでは（たとえそれが優秀録音盤を言われるものでも）

60Hz~10kHz の範囲のサウンドを重視して音溝が刻まれているからです。

その理由ですが、この帯域をきちんと刻むことが音楽再生上は必要にしてかつ十分だからです。

この範囲を超えた広帯域の音を刻むことにはそもそもあまり意味がありません。

通常の楽音はこの範囲に納まっています。

むしろプレーヤーから出力されるトータルなサウンドのクオリティに大きな影響を与えるのは（カートリッジの違いというより）針先からレコード盤へ行く振動とトーンアーム側へ行く振動の処理の仕方です。

これらの処理が適切で、カートリッジ本来の能力が発揮出来る環境であれば、どちらのカートリッジでもOK、レコード再生上の問題はありません。

では、何故 MC Windfeld では実用上不要な広帯域化を図ったのか？ それはこれがオルトフォンにおける故 P.Windfeld 博士の功績に対する記念品だからです。取説にはそういう趣旨の説明が書いてありました。